令和6年度 第3回 市民参加推進会議（会議録概要）

開催日時	令和7年1月22日（水）午前9時30分から午前11時30分まで
開催場所	白井市役所東庁舎1階会議室101
出席者	吉井会長、岡澤副会長、竹内委員、大嶋委員、折原委員
欠席者	稲葉委員、増子委員
事務局	鈴木市民活動支援課長、渡邊主任主事、中村主事補
傍聴者	なし
議題	(1) 令和5年度市民参加の実施状況に対する総合的評価（資料1） (2) 答申書の提言事項の検討について（資料2） (3) 市民参加条例の見直しスケジュールについて（資料3） (4) その他
資料	①資料0 第3回次第 ②資料1 答申（案）総合的評価について ③資料2 昨年度提言 ④資料3 市民参加条例見直しスケジュール（案） ⑤参考資料 昨年度答申書

（会議内容）

●1 開会

●2 会長あいさつ

●3 議題

議題（1）答申（案）総合的評価について

意見等無し

議題（2）答申書の提言事項の検討について

○●●委員 ありがとうございます。よろしいですか。

○事務局 はい、よろしく申し上げます。

○●●委員 それでは、今も御説明ございましたけれども、今日ここで文章を残すということでは当然ないのですけれども、例えばイメージですとか、そういうのも含めて御意見を各委員さんのほうから出したいということだと思いますけれども、いかがでしょうか。

今年初めて出すような概念は、そんなになんかと思うのです。今までにいろいろ取り組んでいただいたことの一層の推進だとか、そういうことも含めて、それは我々が、各実施をされている方々もそうだし、市の方々への後押しとか、応援とか、そういうことを含めて、我々も答申を出しますので、今まで言ったからいいとか、そういうことじゃなくて、そういうことを含めて、もしお考えあれば、御意見を皆さんの中からお出しただいただければと私は思いますので、よろしく願いいたします。

○事務局 今年度については1事業ということで、材料がちょっと不足するのではないかとはい思うのですけれども、会長おっしゃったとおり、去年と似たようなものじゃ駄目とかではなくて、プラスアルファでつけ加えたりだとか、例えば、今年度については、資料1 総合コメント

のアンケートは、三つのテーマ別で実施しておりというのがあって、そこはかなりよかったのではないかとということで、委員の皆様からも頂いたところではあります。既に昨年度の時点で、幅広い対象者を設定して、実施してねというのはあるのですけれども、それをまた改めて出していくというのは、一つあるのかなとは思いました。

例えば各手法においても、パブリックコメント募集時にQRコードを掲載していたというのはまたあるので、それを引き続きというような形で取り込んでいったりとか、そういうのも見ていただいて。

○●●委員 いかがでしょうか。

それでは、私の個人的な考えとして、ちょっと逆になっちゃうのですけれども、私、今回この対応をするに当たって、事前周知系の話がないんじゃないですか。もうちょっと深めていただければと思うような感じだったのですね。ですから、今回、事前周知は駄目だと言うつもりは全くないのでけれども、事前周知を一層深めていただければと私は思いました。そういう意味では、別に否定ではないですよ。もっとオープンに、事前周知をすることによって、数多くの、これは前からそういうふうに言われていますけれども、市民の方々を巻き込んでいくということではあると思いますので、私はそういうふうに思いました。決して否定じゃないですよ。否定じゃないです。一層推進をという、そういう考えになるのですけれども。

○事務局 御指摘のとおりで、広報とかホームページの掲載と、あとは、LINEでパブリックコメント取りますよというお知らせが基本にはなって、それは職員に大分浸透してきているかなと思うのですけれども、なかなかそれ以上のところの周知は十分できていないという面はあるかとは思いますが、そこら辺のさらにどういう工夫があるといいのではないかとというような担当課のヒントになるようなアイデアがあれば、また頂けるとありがたいと思います。

今年度6月には、計画を策定していく担当課の職員にメール配信とか、SNSとか必須でやっていきましょうねということの説明をして、好事例の紹介も、そのときにしておりますけれども。ある課では、YouTubeをアップして、障がい福祉計画の関係だったのですけれども、計画を分かりやすくYouTubeにまとめて、パブリックコメントを募集していますというようなのをつくってみたりというようなケースがあったりはしたのですけれども、何かこういう取組をすると、さらに周知が広がるのではないかとというのがあれば、御検討いただけるとありがたいなと思いました。

○●●委員 ありがとうございます。

いかがですか。

○●●委員 今、例えば今YouTubeという話をされましたので、それというのは、決まった例えばガイドラインにある、その内容のより充実化みたいな感じ。今YouTubeの話されましたけれども、例えばホームページに載せるとしたら、ホームページに載せるのがガイドラインに載っているとしても、それは載せなければいけませんと。けれども、載せるときには、もう少し分かりやすい工夫をしたらって、質の話をされているんじゃないかと思うのですけれども。

私その1個前に、これ例えば、ホームページに載せます、それから好事例に載せます、何々に載せますというのを三つ載せなきゃいけないというルールがあるとしたら、三つに載せなきゃならないことを確実にまず守らなきゃいけないわけですよ。だって、ガイドラインに書いてあるのだから。変な話、三つに載せろというふうに書いてあって、三つ載せれば、それは言

ってみれば丸じゃないですか。だけれども、三つに載せなきゃならないのに、二つしか載せなくて、でも、二つのうち1個は、すごい工夫をしましたというふうに言われても、その工夫度合いというのは、ここで判断できないから、したがって、三つじゃなくて二つしかやっていないですよということで、マイナスポイントになっちゃうところだと思うのですね。

そう考えると、今、資料にも昨年度提言であった職員の方々の意識の向上のためにであれば、検証をやるのかということが多分すごく大事なことだと思うのです。だって、三つやるって決まっているのに、もしやっていないとしたら、それは意識が足りないから、認識が足りないからということだと思うので、それをやらなきゃならないと。

そのまま職員の研修の中身ということに少しフォーカス当ててお話しすると、恐らく研修をやるといっても、ある一定の限られた層、さっきの話で言えば係長、補佐クラスの方にやるとしたら、例えばもっと若い人にやるとか、あるいはもっと上の多層に渡って階層別に行って、例えば最初の研修を受けたら、その次の研修を受けられるみたいな、何か研修をやる上での仕組みをつくったりして、職員の方々皆様の意識を高めるようなことを、それぞれ研修1回やりましたということじゃなくて、継続性とか連動性とか、それからその有効性、効果を高めるためのいろいろな工夫みたいなことがあると、多分、研修というのは効果が出るのじゃないかと思うのですよね。恐らく1年間のうちに1日か2日間の研修だと、その日あるいは、その直後は、非常に意識高まっていると思うのだけれども、やっぱり時間が経つと、その研修の中身を忘れてしまったりするのは、人間普通のことだと思うので、そうさせないように、例えば1か月後に、研修の中身のキーワード三つについて、実際に行動の中、日々の職員の方の活動の中で、何をしましたかというのを定期的に聞いていくとか、その研修の中身の効果を高めるための工夫することが結構大事なことです。

研修ってすごく大事です。私も企業にいて、重要性とかはすごく感じるし、なかなかやっても効果が出ないということを痛いほど感じているので、その効果を上げるための工夫をこの行政、市役所の中で何かできれば、とてもすばらしいと思います。意見でございます。

○●●委員 ありがとうございます。フィードバックですかね。

各委員さん、いかがでしょうか。

●●委員、何かございますか。

○●●委員 ありがとうございます。今回事例が一つなので、そこから導き出すというのは結構難しいなというところを今考えていたのですが。この間の職員研修で、実際に好事例の紹介もあったのですね。それ、すごくよかったと思うのですけれども、

建築宅地課の好事例があって、この会議の中で話し合われている以外でも、市民活動支援課で持っていらっしゃる情報とかも基に、いい事例を紹介してくださっていて、すごくそれをほかの課も参考にしながら、市民参加の取組が行えるような形で、その部分すごくよかったと思いました。

あと、もう一つなのですけれども、実はここで話し合われていた昨年度の提言を基に、eモニターのツールをパブコメで利用できないかということをお話ししたところ、eモニターを担当している企画政策課の方が、終わった後にお話に来てくださって、パブコメで使用するによって、eモニターの使用率というのも高まりますし、パブコメも、もし参加する人が増えたら、両方の課にとってプラスになるのじゃないかという議論があったのですね。それが、これから実際にどう動いていくかというのは、いろいろな調整が必要になってくるかと思うので

すけれども、そういう形で、この会議の場で出た具体的な、そしてハードルがそこまで高くないかもしれない提案というのが少しずつ形になっていきそうなところも出てきたんですね。なので、そういう具体的な提案をこの場でしていったら、例えば職員研修の場なんかで御意見頂いて、具現化していく流れができてくると、すごくいいと思いました。

なので、ここの提言も、実際に実現していく上では、まずは、具体的に評価をした中から、よかった事例であったりとか、組み合わせられるような事例をこの場で話し合っ出ていくというのがいいと考えていて、だからといって、今年度、具体的に何が提案できるのかというところは、今この評価のを見ながら考えているところなのですけれども。e モニターのところは、すごくうまくいくといいと考えております。今のところはこんな段階です。

以上です。

○●●委員 ありがとうございます。

●●委員、どうぞ。

○●●委員 いろいろな話を今聞いたのですけれども、提言の中で、昨年のを読んでみると、変えたほうがいいのか、今回の提言を見たりしていますと。

私としたり、今回、非常に提言の中で、市民の関心を高めるためのさらなる工夫を行うという文言があったのですけれども、これは非常にいい文言かと。これをもっと深めて、さらなる工夫ってどんなものかというの、皆さんでちょっと話したらいいのではないのかと今思いました。

この間、私のところに、バスだったか何かのアンケートが来たんですね。初めて市からアンケートを受け取りまして、膨大な量で。それを見ていて思ったのですけれども、これじゃあ市民の思いは吸い上げられないかと、アンケートの質問自体がですね。

何が困っているかというのが一番大事で、市民の方は、どうしたらいいのかという思いがあるのに、そこになかなか行き届かなくて、すごくたくさんめくって、すごい量だったのですね。だから、吸い上げる内容ですか、そういうものをもうちょっと、市民の思いを市の職員の方が分かるような方策も考える必要があるのではないかなと思いました。

市の職員の方に対する教育については、私もサラリーマン何年もやってきましたけれども、すぐ忘れちゃうのですよ。そのときは熱くなって、終わった後、飲みに行ったら、みんなで喧嘩やりますのですけれども、1週間も経ったら、喉元過ぎてまた同じことやっているんですね。だから、しつこいようにフォローアップして、事例研究ですね。事例に対して、みんなどう思うかということをやって、白井市として一つのベクトルに合うようなことに向けて、研修していったらいいの。

ただ、そうすると、個性もなくなってしまおうので、難しいところがあるのですけれども、その研修の思いがずっと続くような、何かフォローアップ等も考えたほうがいいのかと私は思いました。

以上です。

○●●委員 ありがとうございます。

先ほどから出ていますけれども、推進といいますが、フィードバックといつか、そういうことの延長ですよね。

○事務局 一つには、提言の内容ということで、ここですぐに答えるということではないと思いがながらなのですが、アンケートに関しては、確かに内容の工夫であったり、そういったとこ

ろに関して研修していただくのも一つかなというのは、お聞きしていて思いました。

あと、フィードバックの部分なのですが、市民参加の小さな取組かもしれませんが、チェックリストじゃないですけども、簡単にちゃんと、必須のことはもちろんですけども、こういった工夫ができていくかというチェックリストを作ったりして、それを庁内の電子書庫という保存する場所があるので、そこで定期的に市民参加のチェックリストをみんなで振り返ってみましょうみたいなのを働きかけたりすると、比較的ハードル低く、研修の成果がフィードバックするのかなと思いました。もしよければ、次回までに、こんな感じではというものを考えてみていいかなということを実は今、思ったのですけれども。そこら辺も、今すぐどうこうというよりは、提言の中に入れていただければ、職員にも伝えていけるということもありますので、フィードバックの部分も大事だと思いました。

○●●委員 ありがとうございます。チェックが大事ですよ。先ほど●●委員からの話として、抜けたりする。そうすると、チェックを並行していけば抜けるということはないですもんね。お話しいただいたように、チェック大事ですよ。ありがとうございます。

●●委員、どうぞ。

○●●委員 やっぱり情報の提供の工夫というのは、とても大事だと思っております、市がLINEの友達になりましょうということで市公式LINEを設定されて、私もそれで友達登録をさせていただいたのですが、本当にいろいろな情報がLINEで流れてくるので、今こんなことやっているのかというようなことを確認するという意味では、LINEのツールというのはとてもいいなと思いました。

パブリックコメントやっているよというようなことも流れてはくるのですけれども、どう関心を持ってもらうかというところの取組が何かさらにあるといいと思っております。

こういう会議に参加させていただいて初めて、こういう制度があるということや、こういう事業についても、こんな検討をされているのだなということを委員になって初めて知ったというようなことがあるのですけれども。多くの方は、恐らく、市でこんなことを検討しているのか、こういうような流れでいろいろと工夫をしているのだということをほとんどが知らないといえますか、意識しないままという部分があると思うのですね。

そういう意味では、どう市民に関心を持ってもらえるのかというところでは、繰り返し周知していくということは大事だと思うのですが、同じやり方というよりも、周知のたびに少しPRの仕方を変えていくとか、具体的には言えないのですけれども、単にこういうことをやっています、プラスアルファの提供の工夫というのがやっぱりあっていいと思っております。

パブリックコメントは、非常にハードルの高いものだと思っていたのですが、LINEでお知らせが来たりすると、回答とか意見提出までいなくても、こういうことを今、検討されているのだなということは、そこでいろいろ情報を得ることが出来ますので、繰り返しやっただくということは、結果としてなかなか効果が上がらなくても、そういう草の根的な取組というのをぜひやっただけならいいと思っております。

それと、研修についてなんですけど、もうやられているのかもしれないのですけれども、研修に出た方が、同じ課とかグループでの伝達の研修というのは、されているのでしょうか。研修を受けられた方が、それを同じ課の職員にさらに伝えるという意味では、自分でもう一度整理をし直さなきゃいけない部分もありますし、伝達研修を受ける側からとって、今こんな研修したのかというようなことで、この市民参加の重要性みたいなものを理解される一つのきっかけ

けにもなるかと思しますので、そういう伝達研修的なものがあるといいと感じました。

以上です。

○●●委員 ありがとうございます。

事務局、いかがですか。

○事務局 ありがとうございます。恐らくではありますけれども、口頭での伝達研修というのは、実際のところはできていないと思われれます。資料の課内での回覧というのは、あり得るかもしれませんがけれども、そこまではできていない部分がありますので、実際、業務量の観点でそれが実現するかどうか、比較的ハードル低く、それから実現する方法があるかどうか。

例えば、ただ資料を回覧するだけではなくて、ここがポイントでしたというところへ、職員が自分なりに整理して書いて、回覧するというのは、もしかしたら一歩進んだことになるかなというのをお聞きして思いました。そういったところを職員研修の部分に提言として書いていただくというのも一つかと考えられます。

○●●委員 ありがとうございます。

●●委員。

○●●委員 なかなか日常の業務が忙しいので、難しい部分があると思いますが、例えば、いろいろな施設の現場ですと、代表派遣で研修に行ってきて、それを同じ現場の人に共有して、さらにいろいろなサービスを上げていく部分で効果を発揮しているというようなことを聞いたこともございますので、その関連で申し上げたということです。

○事務局 ありがとうございます。

○●●委員 ありがとうございます。

○事務局 職員も、外部の研修に出たときは、復命書の工夫はそんな感じでありまして。この研修を通じて、ほかの職員に伝えたいこととか、この研修のポイントは何だったかとか、研修がためになったか、そうではなかったかみたいところを考察しながら、復命書を作って課で回すというような仕組みは実は導入されているのですけれども、庁内で行われる研修に関しては、そこまでできていないというのが、今お聞きして改めて不足していると思いました。

庁内の取組も、そういった感じで検討してみてもどうかという御意見だと思しますので、そこら辺も今後、研修の部分に記載していただくというのも、一つ考えられることだと思しました。

○●●委員 ありがとうございます。研修成果のさらなる共有、今までも共有はされていた。

●●委員、どうぞ。

○●●委員 今、皆さんに御意見頂きながら考えていたのですけれども、アンケートとか、私もLINEは登録しているのですけれども、LINEとかでメッセージが来ると、町でどんなことが起こっているのかというのが、私自身住んでいなくてもいろいろ分かるので、LINEの使用とか書いても、SNSということは書いてあるのですけれども、そういうSNSの活用について、例えばパブコメやっていますよということを公表するだとか、そういうのを使っていくみたいなことを具体的に書いていくと、課の方もやりやすいというか、そういう行動に移しやすいと私も思いました。

この二つの(1)と(2)を見たときに、(1)が結構、課に対して、やってみたらどうかと提案するような内容で、(2)に関しては、市民活動支援課さんの中で対応できそうなところだと思ったのですね。

先ほどアンケートのお話もあったのですが、確かにアンケートって、作るのが難しかったりしますので、そういうアンケートの作り方とか、そういうノウハウ的な職員研修があってもいいと思ったりしました。アンケートをどう作れば市民の意見が聞けるのか、質問のどういう聞き方があるのかとか、そもそもアンケートの作り方、課でアンケートを作っていることもあったりするんで、アンケートの作り方のコツみたいなのところを学ぶような機会があってもいいのかと、そういう職員研修の内容について書いてもいいと思いました。

あと、もう一つなんですけれども、職員研修、何年かやらせていただいて感じているのが、各課の方の中で、昨年度の提言の(1)の①とかに、情報提供の工夫とか、事前周知の工夫とかができる職員の方というのが、割とフットワークが軽かったりとか、いろいろなほかの方々との連携するのが上手だったりするような方が多い気がしてまして、そういうほかの課とのハードルを低くするような研修というのがあってもいいと思いました。ちょっと書きづらい気もするのですが、例えば東京大学とかだと、吉本新喜劇を呼んで、学生さんに笑いとは何かみたいなのところで授業をしたりとか、連携したりしているんですね。なので、そういう職員同士の気軽に話せるような場づくりとかも、そういうのをつくってみてもいいと思いました。

最後の気軽に話せる場づくりは、なかなかこういうところを書くのが難しかったり、研修としてやるのは難しいとも思うのですが、何かそういう少しユーモアに富んだような形で市民参加の取組を気楽にいろいろ進められたりとか、自分が楽しいような取組ができるような意識づけといいますか、そういうのができるといいと思いました。なかなか言語化したりとか、提言として書くのは難しいと思うのですが、以上となります。

○●●委員 ありがとうございます。

○事務局 ありがとうございます。一旦まとめると、まず冒頭で●●委員がおっしゃっていたのがeモニター。既に今、SNS等を活用した積極的な情報発信の部分で、これはパブコメに、関連させてもうちょっとeモニターを強目に書けると思いました。

というのと、あと職員研修の部分について、幾つか出たと思うのですが、全体としては、継続的なのというところが出たと思います。

今現在、年に3回、研修実施しているのですが、対象としては、新規採用職員と、あと、その年度に計画等をつくる担当の職員と、先ほど申し上げた係長補佐級の職員を対象に実施していますが、いろいろあると思うのですが、●●委員から出たのは、若い人に実施するであったりとか、どんどん段階的に、ステップワン、ステップツーみたいな感じで実施していったりとか、そういう研修の工夫というのも今出たと思います。

あとは、●●委員から出たのが、具体的に申し上げていたのがバスのアンケートですが、そのアンケートが何を求めているかというのですよね。市がただ単に内容を設定して大量のアンケートを送っても、それは回答率も高くはないというのは確かにあると思います。

なので、それに関連して、気軽に回答できるアンケート、アンケート内容の工夫についても出たと思います。

あとは、先ほどSNSを活用した意見募集とありましたが、秘書課で今LINEをいろいろなものに使えるように工夫しているところで、LINEでパブリックコメントとかの呼びかけをするのも、仕組みとしてはできてはいて。ただ意見を求めるだけでなく、意見募集とすることで、今どういうふうに市が動いているかというのが分かるというのはあるので、それをさらにワンステップ、そういったアンケートとかに答えてもらえるようなさらなる工夫、それが

必要だとは思いました。そのハードルが、今はパブコメ高いけれども、気軽に回答できる環境づくりということで、昨年に加えて、実施できればいいとは思っています。そういったものを盛り込んでいければと思いました。これまでのまとめです。

○事務局 あとは、研修の効果を高めるためのフィードバックであったり、課内での共有であったり、そういった単発の研修だけではなくて、その効果を持続させていくための工夫が必要ではないかという御意見もあったかと思いました。

○●●委員 ●●委員、どうぞ。

○●●委員 研修についてなのですけれども、この研修が、先ほどのどこかの会議とか、出張したときに行った人間が戻ってきて、出張報告なりを書いて、みんなに知らせるといふのと、この研修という目的とすると、個人への研修なのか、その個人が研修を受けてきたことが、部署に帰って、部署に習ってきた、勉強したことを反映させるのかというのをしっかりと分かるようにするのが必要だと思うのですね。

皆さんの話聞いていると、この研修に出た人たちが自分の部署に戻って、自分の部署もスキルアップするとかというのも大事なのではないかと私は思いましたので、個人研修という意識づけを変えて、自分が受けてきたことを自分の部署に戻って、自分の部署に周知して、もっとよくするという目的に持っていったらいいんじゃないかと思えます。

ですので、この研修というのは、戻ってきて部署の方々に、自分が学んできたことを自分が理解して伝えて、部署の方々が理解して行動をしてくれるまでを研修としたらいいのではないかと、皆さんの話を聞いていて私は思いました。

以上です。

○●●委員 ありがとうございます。

○事務局 ●●委員がおっしゃったとおり、先ほど申し上げた三つの研修、どれも個人に対してのような、部署から1人とかではなくて。例えば、今年1回もこの三つの研修に出していない部署もありますし、また、重複して、一つの部署から3名とかという、階級とかになっているので。やり方としては、部署から1名ずつだったりとか、そういうやり方も場合によっては可能だと思いました。

○●●委員 ありがとうございます。

研修は、個人のスキルアップという研修もありますし、あるいは、言ってみれば実行する政策なり、事業の中身の浸透という、いろいろなものがありますから。パブリックな部分もあるし、おっしゃるとおり、そこら辺はきちりと分ければいいのですよね。

○事務局 今お聞きしていて、例えば、この研修の後に、資料自体は、実は全庁に各課連絡というものでお知らせはしているのですけれども、対象外の職員は、なかなか資料までクリックしてみるといふところまでしていないと思えます。研修の中で、課に持ち帰って全体共有する、課の市民参加を高めるための研修ですよという目的を伝えたり、研修の中で、この資料は課の中で回覧して、ポイントになることを書いてくださいねみたいなことを研修の中で伝えていくと、比較的实现しやすい御提案と思いましたので、そこら辺も工夫していけると思いました。

○●●委員 ありがとうございます。大丈夫ですか。

○●●委員 大丈夫です。

○●●委員 今、皆さんから出た御意見についても、もっと進化していくというか、効果を出すために、今までの決してやり方を否定しているわけじゃないですから、もっと進化させてい

きましようという意味ですからね。その辺をうまくまとめていただくのも大変かもしれませんが、けれども、ぜひ、そこはお願いをして、また、その案について、この場で皆さんと、またそういう御議論できればとは思っています。

よく言われるのですけれども、答申含めて、毎年同じこととか、前に言ったとか、それはそうなのですよ。同じことだってなんだって、しかし、それを進化させていくという意味では、当然ながら、今までの皆さん方の御意見も、みんなそうなのですよ。成果を出すため、効果を出すためということですから、その辺をうまく、逆に言うと、我々として、答申として伝えたいですよ、それを。この心を。そういうことで、ぜひよろしくお願ひします。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、今日頂いた意見を基に、次回会議で、あと事務局で提言の案を作成させていただきます。

次回、またその場で、細かい部分であったりとか、あと、これはやっぱり入れたほうがいいのかというのがある場合は、言っていただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

○●●委員 ●●委員。

○●●委員 この会議の場と研修が結びついているというのは、すごくいいことだと思ひますので、それも書いていただくといいと思ひました。

研修に関していろいろ、ここ最近、議論が出ていますし、この会議の中で、研修やったほうがいいのかということで、何となく接続されながら、ここでの議論がちゃんと職員研修に反映されているというところも、いいことだと思ひました。すみません。補足です。

○●●委員 ありがとうございます。

そういう意味で皆様方、いわゆる補足という形で、付け加え、入れられるようなことがございますか。次回でまたフィードバックできればいいのですけれども。

○事務局 かなり意見をたくさん頂けたので、全部とはいかないのですけれども、個々を要所要所で取り入れながら、可能な限り入れていければと思ひます。ありがとうございます。

○●●委員 そうすると、議題の2については、終了ですかね。

○事務局 はい。

議題(3) 市民参加条例の見直しスケジュールについて

○●●委員 皆さん、いかがでしょうか。スケジュールについて、どうですか。中身については、次回以降ということが書いてありますからね。

最終的には、議会へは10月以降、議会に諮り、そこで決まるのですかね。

○事務局 御意見のとおりで、条例の新規制定や改正というのは、議会の議決を経る必要がございますので、必ず議会には提案するということになります。

○●●委員 これで可決すると、7年度中に可決するということは、8年からの実際には施行ということなのですかね。

○事務局 そのときも検討が必要ではあるのですけれども、遅くても令和8年4月には、新たな条例が始まるということになる予定です。

○事務局 スケジュール、この表のとおりにはなるのですけれども、例えばパブリックコメントについては、募集と集計ってありまして、募集については、7月の下旬から下旬、30日間を取ろうと考えています。終わったら集計ということで、この7月の初めから8月の中旬まで

を今スケジュールとして引かせていただいていますけれども、期間としては十分に取れるのか、パブリックコメントであれば、その期間、こちらからも各課にお願いするときも、30日間をお願いをしていますので、このような形で取らせてもらっています。一応余裕を持ってという形で今、考えてはいます。

○●●委員 各委員の皆さん、スケジュール案等々については、それでよろしいでしょうかね。

スケジュール案としては、順調に行けば来々年度、8年に施行するというところで、それまでに積み上げてきましょうということになると思うのですけれども、●●委員、今この時点で、スケジュール案的なものについて、何か御意見は補足としてございますか。

○●●委員 大丈夫です。

○●●委員 ありがとうございます。

では、そういうことで、今の時点での皆様方の各委員さんの御意見もそういうことだと思っので、事務局にお返ししたいと思います。

○事務局 ありがとうございます。では、案のとおり、この後進めさせていただければと思います。

条例については、この案のとおりで、3月の次の会議で具体的なものについて、意見等また頂ければと思うのですけれども、それに加えて、本日の議題2の答申提言事項の検討にもありますので、次回については、提言事項の検討、事務局で作成した案について御意見を頂きたいのと、あと、この条例に関しても、素案と概要版、事務局で案をまた作成しますので、それに対して意見を大きく2点、頂ければと思います。

○●●委員 ありがとうございました。